

## 令和元年の平和宣言に関する懇談会の開催結果等について（概要）

## 1 第1回目〔5月26日（日）〕

最初に座長である松井市長から、3期目の平和宣言のあり方に関しては、1期目、2期目の基本的な枠組みを踏襲しながらも、現下の国際情勢の下で、市民社会や為政者が核兵器のない世界の実現に向け行動していくために必要な行動理念を盛り込むこと、また、例示として、過去に平和のために勇気を持って行動した人の経験や残した言葉への言及を考えていることなどについて説明した。その後、今年の平和宣言で触れる内容について議論した。

主な意見は次のとおり。

## 【平和宣言で触れる内容について】

## (1) 被爆の実相

- ・ 日本人の感性に合うという観点から、被爆者の俳句や短歌に注目してみてもどうか。そうしたものには、一被爆者としての心の叫びが短い文章に凝縮されている。
- ・ 放射線による後障害、心の傷、社会的な被害など、原爆被害が継続的なものであることをしっかりと伝えなければならない。

## (2) 時代背景を踏まえた事項

- ・ 本来高潔であるべき指導者が対立を煽っており、これは若者に対しても悪影響となるものだ。本来人間というものは調和を保てるはずであり、個人的な信頼をベースにやっていく必要があるのではないか。
- ・ 核を巡る国際情勢が混沌としている中で、やはり、為政者に実際に被爆地を訪れ、被爆の実相に触れてもらうことが一つの特効薬になり得るのではないか。
- ・ 過去、核を巡って緊張状態が高まった際に、核大国の指導者が違いを乗り越えて解決を図ったということが大変重要となる。

## (3) 核兵器廃絶に向けた訴え

- ・ 核兵器のない世界が大事だという普遍的なメッセージを発信しなければならない。
- ・ 国家と市民の間の核兵器・核抑止力に係る認識のギャップを埋めることが重要となる。

## (4) その他

- ・ 1期目、2期目で積み上げてきた内容の延長で（平和宣言を）やることは非常に良いことだと思う。
- ・ 小中学生などに、難しい言葉が通じなくなっている。若い世代にも伝わるように分かりやすい言葉を使う必要があると感じる。

## 2 第2回目〔6月11日(火)〕

第1回目の懇談会での議論を踏まえ、平和宣言の骨子案を提示し、被爆者が詠んだ短歌やガンジーが残した言葉を盛り込むこと、また、「寛容」と「理性」という過去の平和宣言で提示した行動理念の使用等について賛同を得たほか、宣言の構成及び内容について議論した。

主な意見は次のとおり。

### **【平和宣言の骨子について】**

- (1) 時代背景を踏まえた事項について、人類全体の存続に目を向けるべきときであるにも関わらず、(自国第一主義の台頭など)このような世界情勢になっているとした方がより伝わるのではないか。
- (2) 日本の文化は短い言葉に凝縮して表現するというものがあり、短歌を入れることは非常に良いと思う。
- (3) 「寛容」について、何に対する寛容なのか明確にした方がよいのではないか。ここでの「寛容」は、多様性を尊重するという意味での寛容だと思っており、立場や主張に違いがある中で、対話によって共通点を探っていくというような点をもう少し明確にすればよいのではないか。
- (4) 放射線の悪影響は、心身だけでなく生活にも苦しみを与えることについても言及してはどうか。

## 3 第3回目〔7月12日(金)〕

第2回目までの議論を踏まえた文案を提示し、それに基づき、字句の修正を含めて議論を行った。また、日本政府に対し、核兵器禁止条約の署名・批准を求める被爆者の思いをしっかりと受け止めるよう求める内容を盛り込むことで出席者に賛同を得た。

主な意見は次のとおり。

### **【平和宣言文案に対する出席者からの意見】**

- (1) 市長の思いとこれまでの出席者からの意見がうまくまとめられている。
- (2) 短歌やガンジーの言葉の引用など、特色ある平和宣言になっている。
- (3) 核兵器禁止条約の署名・批准について、日本政府にはっきりと求めていることが分かるものになっている。

## 4 坪井直 広島県原爆被害者団体協議会理事長への意見聴取〔7月19日(金)〕

平成30年までの「平和宣言に関する懇談会」の出席者である坪井氏を職員が訪問し、平和宣言の文案を提示し、意見を聴取した。坪井氏からは、宣言全体を通して「今までで一番良い宣言文だと思う。皆が一緒に核兵器の廃絶に向けて取り組まなければいけないということが表れている。日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求めることについてもちゃんと言ってくれている。」と御賛同いただくとともに、高い評価を頂いた。